

校 長 の 話

校長 上村 哲也

今日から、人権集中学習が始まります。今朝の話はその始まりです。まず、「人権」について確かめておきましょう。

私たちは、一人の人間として、命が守られ、明るく楽しい生活を送る権利をもっています。この権利を人権と言います。生まれたときからずっと誰もがもっている、大切な権利です。

でも、世の中では、残念ながらその人権が踏みにじられている出来事がたくさん起きています。最もひどい出来事は、毎日のニュースで伝えられている、戦争といえるでしょう。とても心が痛みます。

さて、私たちが過ごす第一小学校は良い学校だと思います。それでも時々「〇〇さんの今の言動（言葉や行い）はどうなのだろう？ 相手を傷つけているよ。」と感ずることがあります。お互いにみんなが明るく楽しい学校生活を送るために、私たちは人権感覚を磨いていかなければなりません。

人権感覚とは「人権が守られている状態をよし」とし、「人権が守られていない状態を問題」ととらえることです。

そこで、今日はある言葉を手がかりとして、人権感覚を磨いてほしいと思います。まずはこの言葉、「ばか」。この言葉には、幾つかの意味があります。相手に対する思いやり、親しみ・愛情の気持ちを込めて使うこともあります。でも、友だちと喧嘩をした時などに言う「ばか」は、「能力が低く、愚かな人だ」という意味を表し、相手をののしる、ひどい悪口になってしまいます。



そして、この言葉、「死」。死とは命がなくなることです。自分と相手の関係がうまくいかない時に、この言葉を使って悪口を言ったり書いたりしてしまうことがあります。それは、相手が生きていることそのものを否定する言葉です。決して軽々しく使っていない言葉ではありません。この言葉を悪口として使おうとしたときは、「自分は正しいの？ すべて相手が悪いの？」と自分を見つめ直してください。

さて、「ばか」と「死」という言葉を例に話しましたが、みなさんに考えてほしいのは「言葉には力がある」ということです。そこで、一つの詩を紹介します。北原白秋という方が書いた作品です。北原白秋は、今から 140 年くらい前に生まれた日本を代表する作家（詩人）です。

『ひとつのことば』 北原 白秋

ひとつのことばで けんかして
ひとつのことばで なかなおり
ひとつのことばで 頭が下がり
ひとつのことばで 心が痛む
ひとつのことばで 楽しく笑い
ひとつのことばで 泣かされる

ひとつのことばは それぞれに
ひとつの心を もっている

きれいなことばはきれいな心
やさしいことばはやさしい心

ひとつのことばを大切に
ひとつのことばを美しく

北原白秋は、人々に何を伝えようとしたのでしょうか。

それぞれの学級で話し合ってみてください。

そして、言葉の上手な使い手になってほしいと思います。

・・・これで今日の話は終わりです。



※「言霊（ことだま）」という言葉について

古代日本で、言葉に宿っていると信じられていた不思議な力。

発した言葉どおりの結果を現す力があるとされた。

こ と ば ちから かんが
言葉の力について考えてみよう

『ひとつのことば』 北原 白秋

ひとつのことばで けんかして
ひとつのことばで なかなおり
ひとつのことばで 頭が下がり (あたまがさがり)
ひとつのことばで 心が痛む (こころがいたむ)
ひとつのことばで 楽しく笑い (たのしくわらい)
ひとつのことばで 泣かされる (なかせられる)

ひとつのことばは それぞれに
ひとつの心を もっている

きれいなことばは きれいな心
やさしいことばは やさしい心

ひとつのことばを 大切に (たいせつに)
ひとつのことばを 美しく (うつくしく)

年 組 名前

おも かんが
思ったことや考えたことなど

